

平成29年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園 理事長
木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

1. 生活指導上の基本目標
 - ・ あいさつが出来る ・感謝の気持ちが持てる ・けじめがつけられる ・自分のことは自分で出来る
 - ・ 友達のことを思いやる事が出来る
2. 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。
 - 造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。
3. 自分で考え、行動できる子どもを育てる。
 - いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。
4. 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びが工夫できる子に育てる。
5. いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A、本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	教職員の給与ベースアップ・労働時間の短縮による待遇改善
2	保育のドキュメンテーションの一新とポートフォリオ作成
3	保育参観日の内容改善
4	園舎・施設の安全化の推進
5	体育遊び環境の見直し
6	教員研修の内容改善

B. 評価項目の設定理由

項目	内容
1	優秀な人材確保のためには、何より幼稚園教諭の待遇改善が急務である。労働時間の改善・短縮と合わせ、給与も四大卒の女性の初任給が20万円に到達している一般企業の水準にもっていく必要がある。この為には、まずは給与のベースアップを行わねばならない。
2	子どもや保護者と子どもの育ちを共有する為の保育記録＝ドキュメンテーションの質向上には基準作りが必要である。またクラス全体での保育記録だけではなく、合わせて個人の育ちを年間にわたって記録する「ポートフォリオ」の作成もドキュメンテーションと一体で必須のものである。
3	従来の保育の一部分だけを保護者が参観する内容では、教師の願いやクラスでの取り組み、保育の全体像や流れが保護者に十分理解されているとは言えない。保護者の保育理解を促すには新しい参観のあり方が望まれる。
4	平成24年度に園舎の新築と耐震化工事が終わり、その後28年度にかけて、園庭土質改良や大型遊具の新設など、施設の主だったものの工事は終了したが、旧施設の状態のままであった渡り廊下や階段部分の安全化工事が望まれる。
5	クラスでの全体活動のプログラムとしての体育遊びだけではなく、日々の外遊びの中での自由な活動として体育遊びを促す環境づくりが十分とは言えない。
6	従来の夏期に集中して行われる園内研修 + 外部での講義型研修会参加のあり方をより実効性のあるものに見直す必要がある。

C. 評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	<p>従来は、学年ごとに保育料の違いがあったが、全学年同一の保育料に変更し、これによって、給与のベースアップの原資とする。ベースアップは前年比5パーセントアップとする。これにより女性の四大新卒の平均給与とほぼ同額のものにもっていく。</p> <p>また合わせて、過度な残業が発生しないように労務管理を徹底し、「毎日、全教職員午後7時までに退勤」を確実に達成する。この為には仕事全般の効率化と、保護者理解を進めていかねばならない。</p>
2	<p>写真日記のような小さなドキュメンテーションではなく、子供同士も自分たちの活動を互いに見て、確かめ合える大きな掲示物やスクラップブックなど様々な形のドキュメンテーションの内容と意義を教員で共有し、各クラスでの工夫・取り組みを研修会で発表できるようにする。</p> <p>合わせて、子供一人一人の育ちを写真と解説で一年にわたってまとめていく「ポートフォリオ」の内容と形式を木の実独自の方法で作成し、保護者・子供・教員それぞれが育ちの喜びを共有できるものを目指し、年内に一定の基準で各担任が作成する。</p>
3	<p>「朝の会」と「全体活動」だけを見てもらう参観ではなく、それまで各クラスでどのような取り組みをし、どんな経験・遊びを通して子供たちが育っているかを、担任が作成したドキュメンテーションを使って保護者に語る時間を参観の中に作っていく。これにより連続した保育の流れについて保護者理解が深まる。</p>
4	<p>春にはウッドデッキ前の旧コンクリート廊下部分及び階段をゴムチップで全面コーティングし、周辺も人工芝によって覆う工事を行う。合わせて夏休み中に、ホール出入り口の木質化及びホール前階段、南棟、西棟、南棟二階廊下部分をソフトなタキロン樹脂カバーで覆う工事を行う。またウッドデッキの階段入り口の段差を解消する為、ゴムチップブロックを設置する。</p>
5	<p>人工芝やウッドデッキ、園庭などで使用できる子供自身でも並べ替え、組み換えができるソフトで軽量の遊具を多数導入し、外遊びに使用できるよう環境づくりと指導を行う。</p>
6	<p>夏季の園内研修では、共通理解を持つための講義とテーマに基いた経験年数別のグループ協議を組み合わせて課題の発見、対応の工夫を協議し、新しい実践につなげる。</p> <p>また、外部の研修会は内容を精選し、むしろ日常の教材研究と環境づくりに力を注げるような体制を作り上げることを優先する。</p>

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は29年度末、30年3月に実施する。